

京城日報

五月十八日夕刊 (第千七百九十九號)

外相陳述書

世上無稽の言説に對し 新聞記事の誤報を戒む

内閣外務省は、今日、新聞記者の代表者に対し、陳述書を發表した。陳述書は、今日、新聞記者の代表者に対し、陳述書を發表した。陳述書は、今日、新聞記者の代表者に対し、陳述書を發表した。

支講和調印決定

和平方針改訂せず

對獨回答協議

對支方針改訂せず

對獨回答協議

對支方針改訂せず

對獨回答協議

對支方針改訂せず

對獨回答協議

對支方針改訂せず

對獨回答協議

對獨回答協議

對獨回答協議

對獨回答協議

對獨回答協議

對獨回答協議

對獨回答協議

對獨回答協議

對獨回答協議

對獨回答協議

對獨回答協議

對獨回答協議

對獨回答協議

對獨回答協議

對獨回答協議

對獨回答協議

對獨回答協議

對獨回答協議

對獨回答協議

對獨回答協議

對獨回答協議

對獨回答協議

對獨回答協議

對獨回答協議

對獨回答協議

對獨回答協議

對獨回答協議

對獨回答協議

對獨回答協議

對獨回答協議

對獨回答協議

對獨回答協議

對獨回答協議

對獨回答協議

對獨回答協議

對獨回答協議

對獨回答協議

對獨回答協議

對獨回答協議

對獨回答協議

對獨回答協議

對獨回答協議

對獨回答協議

對獨回答協議

對獨回答協議

對獨回答協議

對獨回答協議

對獨回答協議

對獨回答協議

對獨回答協議

對獨回答協議

對獨回答協議

對獨回答協議

對獨回答協議

對獨回答協議

對獨回答協議

對獨回答協議

對獨回答協議

對獨回答協議

對獨回答協議

對獨回答協議

對獨回答協議

對獨回答協議

對獨回答協議

對獨回答協議

對獨回答協議

對獨回答協議

對獨回答協議

對獨回答協議

對獨回答協議

對獨回答協議

對獨回答協議

對獨回答協議

對獨回答協議

對獨回答協議

對獨回答協議

對獨回答協議

對獨回答協議

對獨回答協議

對獨回答協議

對獨回答協議

對獨回答協議

對獨回答協議

對獨回答協議

對獨回答協議

對獨回答協議

對獨回答協議

對獨回答協議

對獨回答協議

對獨回答協議

對獨回答協議

對獨回答協議

對獨回答協議

對獨回答協議

對獨回答協議

對獨回答協議

對獨回答協議

對獨回答協議

對獨回答協議

對獨回答協議

對獨回答協議

對獨回答協議

對獨回答協議

對獨回答協議

對獨回答協議

對獨回答協議

Various small advertisements and notices on the right margin.

見學場所 主なる處は觀測所、築港

本報主催「第一回婦人見學團」が、五月廿二日、午後六時、築港觀測所にて、見學開始。主なる處は觀測所、築港。本報主催「第一回婦人見學團」が、五月廿二日、午後六時、築港觀測所にて、見學開始。主なる處は觀測所、築港。

第一回婦人見學團(定員)

本報主催「第一回婦人見學團」が、五月廿二日、午後六時、築港觀測所にて、見學開始。主なる處は觀測所、築港。本報主催「第一回婦人見學團」が、五月廿二日、午後六時、築港觀測所にて、見學開始。主なる處は觀測所、築港。

虹の如き氣を吐く

ラッパの音は如何なる人物
ハチ手ハチ手の手腕家
ハチ手ハチ手の手腕家

鐵道小荷物の荷造改良

六月一日から施行
六月一日から施行

荷造改良

六月一日から施行
六月一日から施行

荷造改良

六月一日から施行
六月一日から施行

荷造改良

六月一日から施行
六月一日から施行

在鮮人學生の其後

迷の夢も漸次醒め
迷の夢も漸次醒め

雙手を擧げて賛成

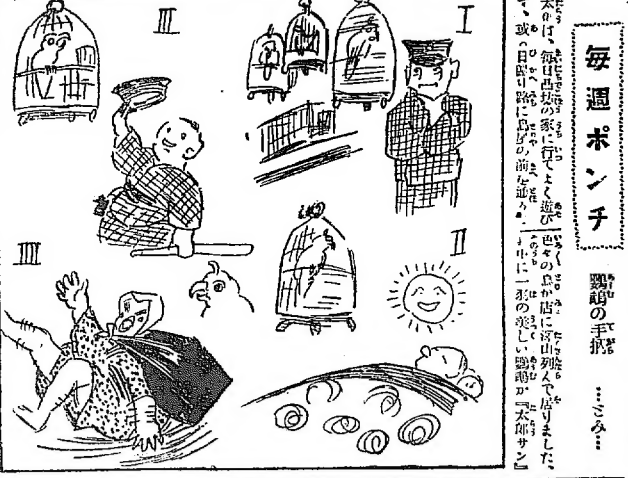
見聞を廣める好機會
見聞を廣める好機會

荷造改良

六月一日から施行
六月一日から施行

荷造改良

六月一日から施行
六月一日から施行



荷造改良

六月一日から施行
六月一日から施行

荷造改良

六月一日から施行
六月一日から施行

荷造改良

六月一日から施行
六月一日から施行

荷造改良

六月一日から施行
六月一日から施行

荷造改良

六月一日から施行
六月一日から施行

荷造改良

六月一日から施行
六月一日から施行

荷造改良

六月一日から施行
六月一日から施行

荷造改良

六月一日から施行
六月一日から施行

荷造改良

六月一日から施行
六月一日から施行

荷造改良

六月一日から施行
六月一日から施行

荷造改良

六月一日から施行
六月一日から施行

荷造改良

六月一日から施行
六月一日から施行

荷造改良

六月一日から施行
六月一日から施行

荷造改良

六月一日から施行
六月一日から施行

荷造改良

六月一日から施行
六月一日から施行

おとぎばなし

つるこ、お通り……」
と申しました。それで旅僧は、また經文を止めないで佇んでゐました。
「煩い坊さんだね、お通云云。これば水をぶつかけてしまふたら、さうさとお通り、行かなければ水をつかへませう。」
それでも、旅僧はまだ佇んで居るのである。お婆さんは、遂々く慪鬱を起して、
「わ、煩さいな。」
と云ふが早いか棚杓に水洒れて旅僧によつたやめました。さうして口をカタバシヤ背させながら歸て終ひました。
旅僧は、やつと經文を止めて、法衣にかつた水を靜かに拂ひながら怒りもせず却つてニコ／＼しながら其處から立ち去りました。それから間もなく夕暮の事でした。例の旅僧は、又門口に立前の襷飾を振りながら經文を唱へました。それを聞き付けたお婆さんは、
「お、これはく旅僧さんよりぞれぞれしたまいせう。」
と云つて、お金をお茶を與へまし

振りのお婆さんは、お爺さんの留守を幸ひお礼に向つて
「私には害物をさつたり惡人で下すさ願ひしました。するさ、お礼が佛に二つに裂けたかと思ふ、中から旅僧が姿を現はして、
「これ、婆さん、よく聞け……」
お爺さんは一日として體を止めた事はない、寶物を與へたのはその日の報ひぢや、それに引續へお婆さんに懺はれて許り得て何つと申さらない、その報ひでは、是を以て々興る。」と云ふ言葉を發して、旅僧の姿は、櫻の樓に消へて終ひませんでした。するさ、澤山な怪物が出現下來たお婆さんを苦しめました。
『あゝ、苦しい誰か助けて呉れ』
大廳をあけて居る處へお爺さんが歸つて來て、やつと助け出しました。それで來てお婆さんは、すっかり心を入れ替へて、お爺さんに世にせつせき働くらになりました。

第一版

いかう云ひ出した、いまだく
 魔魔、別荘の競争地だ、其れより
 批者は一直接に卓頭へ行つて見
 かくう云ひ出した、いまだく
 魔魔、別荘の競争地だ、其れより
 批者は一直接に卓頭へ行つて見
 かくう云ひ出した、いまだく
 魔魔、別荘の競争地だ、其れより
 批者は一直接に卓頭へ行つて見

くへ來てゐた。

へる、而も支那當局はこれに
 て死んぞ手を挽いて知らぬ
 居る警官の手で何ぞか出本
 詰めの裁判手続が及ぶ
 事は澄ましたもので「愚賊は
 の名物だとか仕方がない」さ
 半分の返答
 日暮はガラリと外れた。元來北
 の將軍は平常から非常、朝敵の
 敵なるのを以て人ぞ知られ軍事に
 も外交にも一種の識見を中々
 人に下らない方であるから早速日
 頃の強敵の魔法を執つてか否か
 は知らないが

押^お揃^{そろ}ひ半^{はん}分^{ぶん}の返^{へん}答^た

來、將士を國國に人種的
 等を以て大々的の逆襲を要し
 ことであるが、理も通く
 この事である所が、今も、
 式の者はかりは居な、最も
 嫌つたのは其將軍が軍重公署
 見た時の事である。是れ
 將軍龍龍の寄の直話から、
 を置かせる其の時其直話は
 の將軍に向て
 自ら進ん、日本の親善
 ばならぬ云、理由を成
 通へ立て、大いに將軍を
 したのである……處が其の
 には尚ほ種々の逆襲を続
 ばならぬ相互に諒解を得、止つ
 着以外外部に轉する事が出来
 て如何にして親善でなければ
 らぬと兩國に親睦の土を自
 嫌した時に始めて其親善を生
 來るものである是れを得るま
 非常の努力を要するは勿論
 時、場合によつたばつて
 時、支を就つて立たねばなら
 があるであらう故、其の彼に
 する迄には和戰兩俱共に多
 善を執はなければならぬ、
 日、月、空間の先、其は心から必要

る理事事務打合せ

麥あわ作しやう…(平安南道)

の幾分を容るゝとこなし
決を告げ全部の苦力復業

出でしもの有し云ふこと
 十三日夕刊報外所載
 華英會社の項中朝鮮より
 代表者として署方某云ふ
 廣江商會なる者は現在延
 廣江氏が蘭洲へ代表者も
 が如きことは全然事實上
 となれば該記事を取消す

主側に於て負擔する條件

| | |
|----------------------|----------------------|
| ぬくひ半分の返答 ぬくひ半分の返答 | ぬくひ半分の返答 ぬくひ半分の返答 |
| ぬくひ半分の返答 ぬくひ半分の返答 | ぬくひ半分の返答 ぬくひ半分の返答 |

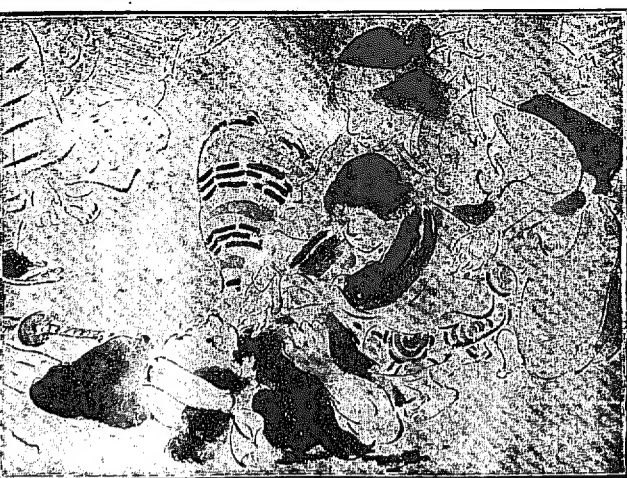
押^お揃^{そろ}ひ半^{はん}分^{ぶん}の返^{へん}答^た

來、將士を國國に人種的
 等を以て大々的の逆襲を要し
 ことであるが、理も通く
 この事である所が、今も「櫻
 式」の者はかりは居な、最も
 嫌つたのは櫻將が、櫻重公を
 罵した時の事である。是れ
 將軍龍胆の香の直話から、半
 を置かせる其の時、龍胆は
 大に櫻將に向て
 櫻將自ら進ん、龍胆の殺戮
 大いばらなぬ云、理由を成
 通へ立て、大いに將軍を殺
 したのである……櫻が其の
 には尚ほ種々の逆襲を続
 ばならぬ相互に諒解を得、止つ
 着、以外の外部に轉する事が出来
 て如何にして、殺戮でなければ
 又、兩國に最後の一、人々が自
 嫌した時に始めて其殺戮を生れて
 來るものである是れを得るまゝには
 非常の努力を要するは勿論
 時、場合によつたならば
 時、文を就つて立たねばならぬ事
 があるであらう、故に其の彼に際
 する迄には和戰兩謀共に多量なる
 準備を要しなげばならぬ、否、
 日、月、星の先、其の心から必要

東山邊南

へも、お上は立上られ祈すて
 出た。關原の遺兒殿
 をぞやい川中流へ、山賊
 薩摩の娘を愛通つて心
 無八幡松屋、師平社の
 さらし。おさよの一姫一
 て居る正俊・宗廣・俊
 おまよは海渡れが出て
 矢張親しみかな女にこ
 ねむり見れば、長
 分かれぬと云ふので、繁子王
 ち先づかゝ来た。長

そでお上へ願つて足儀の場所を
 下けて置け、おさよ・源次郎
 正俊、宗廣、彼道五人揃つて江口
 御所へ上らせ、關原の跡地に供
 て法事を致しました、後継
 は正義の弟子となり、此人が二
 日正俊、おさよは腰裏を刺つた
 なり、真太郎の養育に任せ無
 のは痛なる貞徳様のこころ無
 俊と結束れた此宗の木の娘き
 ひは、永年の望がかなつて正
 目出度能程になり、段々國
 が親年を老つて何時そいつ



卷之三

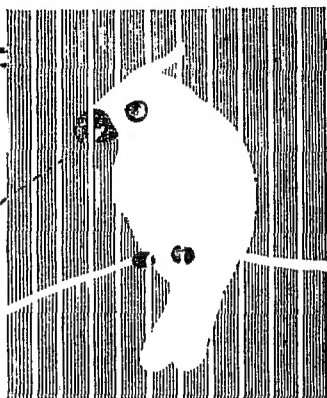
東京本町壹番電話 一八七〇
 ツ 津村兄弟商會

方 福 所 立

若い青年の心から、
 又は世間、
 されて来た。こ
 舉である。然しこれは
 社會の大なるもの
 無きな

[illegible]

SIROP CAFE



時代に適應したる!!

四季常用好飲料

お湯でも 冷水でも すぐ召上られろ

シロップ

シロップ

カフェパウリスタ

用法

普通コーヒーを淹れる(一人一合)に、本製品を、
濃い甘いものを好むの方は八割位のコーヒー、
シロップを入れ少量の牛乳を混ぜて、熱湯を注ぎ
ば、即座に香気あるコーヒーを得べく、夏期は冷水に
て用れば最も適宜なり、他アイスクリム、
ジェリー等の原料として最良なり

壹瓶 定價 四拾 銭

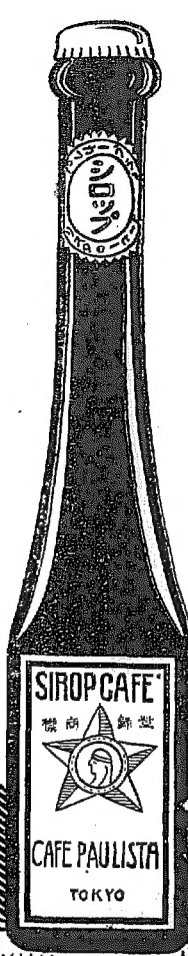
洋酒、食料品店
藥種、罐詰品店に販賣す
乾物、八百物店
雜貨、洋菓子店

特約販賣店

京城南大門 辻本商店
釜山 辨天町 あづま屋商店

發賣元

東京 大阪 神戸 名古屋
株式 会社 カフェパウリスタ

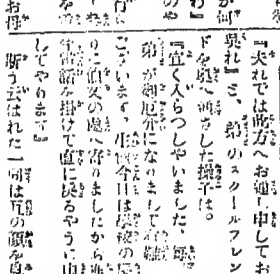


コーヒーシロップはブラジル
ルコーヒーを合理的製法に
依り完全なる工場に於て精
製したる濃厚なるコーヒー
液に純良なる糖蜜を合成し
たるものなれば香味共に清
鮮優秀にして用法の簡便な
るこそ時間にしてても経費に
於ても實に理想的四季常用
の御家庭向き御重寶品なり

ブラジル産コーヒー

珈琲は古昔アフリカ及びエチオピアに於て産出されて居りまし
たが十五世紀の終りに成りまして、ブラジルの山に於て廣く精神通達者のため
に製法が改良されて飲用せられたのが飲料として用ひられた最初であり
まして、東洋から世界各國に流布せられたものであります。ブラジル國
には地味風土よく珈琲の栽培に適したるため、今日では年産額二百
萬トンに達し、世界産額の十分の七を占めて居ります。
本社は先年ブラジル國サンパウロ州政府から極東に於ける販賣の委託を
受けましたが、我々は未だ歐米各國の様に珈琲の嗜好が少なくないので、これ
が販賣を奨める爲めに先づ其の研究を願ふ素志に依りまして、東京、
大阪、名古屋、神戶、京都、神戸の各都會に純正のブラジル店を開
張し、ブラジル産の珈琲を廣く販賣し、其の廉價を以て營業致して居り
ます。ブラジルコーヒー産地のブラジル國サンパウロ州政府は我國の移
民を非常に歓迎し、十萬の邦人は遠く南米の大陸に於て、珈琲の栽培に従事
し、我が國の國威を發揚して居るのであります。
それ故にブラジル、コーヒーは實に我が國移民民衆の熱誠なる努力の結
果得たる産品と申す可きであります。
本社の爲めは、其の精に就きブラジル、コーヒーは今や我國家庭に必
須の品となり、また、朝夕の御常用は勿論、四季を通じての御運動用品
として、此上もない時代に適應したるものであります。



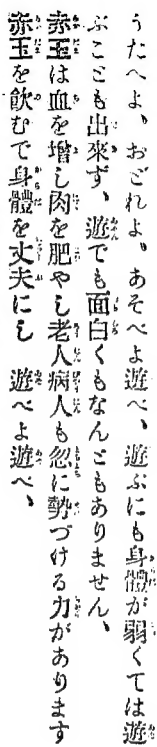
[illegible][illegible]

お客の御座いますか。あつて、さういふお客が、
 合せて居たが、さうする。隨分君は今日学校で
 「まいたか」
 「妙でない病氣で苦しんで居るが、
 出来たか。それ、我れくは、男婦に
 つたてた。

皮徽科専門 扇田醫館
 京本太平通一
 電話二五八〇

〇私設交換手
 養成所
 本所之を一般に供託

酒^し萄^ぶ葡^ぶるた兼^{かね}を養^や滋^じと味^{あじ}美^び



つこめよ、はけめよ、**働らけ**はたらけ、**働く**事の出来ない様な弱い人、元氣のない人、**精力**のない人は是非早く**赤玉**をば飲みなさい。日にく**活氣**つき、**威勢**つき、如何なる仕事にも骨が折れず、面白く**働ける**様になります。 **働らけ** **働らけ**、

る優に薬百は杯一の夕朝



良い匂ひ！

大 鱗 組 商 會

ハンカチに

田
 七
 七
 七

[illegible]